

三重地域懇談会

三重地域懇談会

多文化共生 プチフォーラム開催報告

知って、学んで、考える～あなたの身近な多文化共生

世話人／安村富子



開催: 2021年10月16日(土)

参加: 行政、教育、NPO、外国にルーツもつ 方々



パネリスト

多文化共生ネットワーク エスペランサ 青木幸枝さん



外国人労働者の権利が守られないということは、必ず日本人の労働環境も悪化させる。
当事者は彼らでなく私たちなのだ。

自分事とするには 心的に大きな労力を要するため、無意識の回避が生じる。

やがて、壊れていく音が聞こえる人と聞こえない人の間に分断が生じる。分断から何を始めるのか、今もっとも必要な視点である。



パネリスト

NPO法人日本ボリビア人協会 理事長
山田ロサリオさん

「ボリビアと日本の架け橋となる」

パネリスト

NPO法人伊賀の伝丸 代表理事
和田京子さん

「言葉の壁」学習支援、若者の自立支援に取り組む

コメンテーター
 三重県 ダイバーシティ社会推進課
 副課長兼多文化共生班長 小川さん
 「外国人サポートセンター開設」、「通訳
 育成」「災害時のサポート支援者育成」



コメンテーター
 松阪市教育委員会 学校支援課いっぽ教室
 指導主事 辻本さん
 「初期適応支援教室」「就学前支援教室」の
 開設 など

コメンテーター (オンライン参加)
 公益財団法人 三重県国際交流財団
 上原専門員
 三重県からの受託
 「外国人相談サポートセンター
 みえこ」を11言語で対応



コメンテーター
 ゲストハウス イロンゴ代表 倉田さん
 「人と環境が調和する持続的社会的実現を
 めざす活動や多文化共生について」

本日、ゲストで来ていただきました

地域社会における共生と協同について 「知って、学んで、考える」場となることをめざして

今回は「多文化共生にかかわる現状とこれから」を
いろいろな立場の方々からお聞きしました。

参加者からのアンケートの一部をご紹介します。

- ・取り組みに感銘を受けた
- ・三重県に外国人住民が多いことを知った
- ・子どもたちへの学習支援の必要性を知った
- ・現状を理解するにはこのような実践事例が大事である
- ・これは私たちの問題という言葉が心に残った

・生協が多文化共生にこれだけ問題意識を持っていることに
感動した。
協同できる部分があれば提案していきたい。

・PCR検査の結果待ちの外国籍のご家族の買い物支援につ
いて、地域の社協からくらしのすけあいの会へ問い合わせ
があったが、感染の心配以上に言葉の壁が大きく、関りがな
いと問題意識も起きない。
まず現状を知り理解を深めること。
協同組合の在り方についても考える必要がある。

多文化共生は自分事である。

当事者は自分たちであるとなんでも多くの日本人が気づくことができれば、ともに地域でささえあい暮らし続けることができるのではないのでしょうか。

この間、私たちが多文化共生について知って学び考えることができましたのは、たくさんの方が関わっていただいたおかげです。

改めて感謝するとともに、学びを続けていきたいと思えます。



津市白山町における 多文化共生の事例

ゲストハウスイロンゴ 代表 倉田麻里 (国際コンサルタント)

本日の内容

- フィリピンでの活動と夫との出会い
- 夫が日本へ移住・適応するまで
- 日本に住んで5年目、課題は？
- 外国人相談窓口WELCOMEへの相談の事例
 - 生活困窮
 - 精神障害
 - 出産・新生児ケア
- フィリピン人コミュニティのリーダーに聞く、在日外国人の課題

フィリピンでの活動と夫との出会い

- 大学院卒業後、フィリピンで活動する環境NGOに就職
- 現地駐在員として、マングローブの植林活動などのコーディネートを担当
- 現地生活に慣れ、現地語もマスターした5年目、植林活動中に植林地の村出身の夫と出会う。
- 現地で約3年間、植林活動や有機農業を現地に広める活動などを行なったのち、日本（私の故郷である津市白山町）へ移住を決意。
- 2017年～日本での生活が始まった。



夫の実家の村

- 夫の父は水牛で耕作をしていた。水源地で原生林がわずかながら残っている。



夫が日本へ移住・適応するまで

VISA

- ・親族訪問（90日）→配偶者（1年）→配偶者（1年）→配偶者（1年）→永住（無期限）

運転免許

- ・国際免許→外国免許切り替え（6ヶ月・8回受験）→大型特殊

仕事

- ・面接→仮採用（3週間）→正社員（無期限）

子ども

- ・2人とも、生後3週間でフィリピンパスポート申請・2重国籍・0歳児から保育園へ

日本語

- ・移住前（挨拶程度）→1年目（ひらがな・カタカナ）→5年目（日常会話程度・小1以下）

地域との関わり

- ・草刈り、農作業の手伝い、廃屋の不用品の引き取り、運動会などに参加、有害鳥獣駆除

趣味

- ・バスケットボール、バドミントン、スノーボード、登山、バーベキュー、料理、農業

日本に住んで5年目、課題は？

- ・交友関係の広がりが少ないこと
- ・特にフィリピンに帰国できないことがストレスに

対策

- ・WWOOFホストになることで、日本人の若者と出会う機会に
- ・私が主に行っている、インターナショナルフェスティバルやWELCOMEの活動が、地域のフィリピン人（外国人）と出会うきっかけに
- ・バスケットボールチームに参加（最近）

外国人相談窓口WELCOMEへの相談 事例 1 ―生活困窮―

- 10年前に中古住宅を高額で購入、住宅ローンが残っている。
- 車の免許がないので送迎付きの派遣の仕事しかできない。
- 国民健康保険の借金が積み重なっている。
- 新型コロナ陽性になったため、家族全員が自宅待機になりほぼ1ヶ月仕事が出来なかった。

学び

- 外国籍の方は、日本の諸制度についてよくわかっていない。
- 税制→住宅ローンの控除・扶養など、年末調整・確定申告の仕方
- 国民年金→強制加入・免除申請の仕方・厚生年金との違い
- 国民健康保険→強制加入・世帯主の役割・社会保険との違い
- 納入の遅延による利息
- 納入方法による手数料・割引率の違い
- 上記のことから、「損」をしていることがある。

外国人相談窓口WELCOMEへの相談 事例 2 ー精神障害ー

- 息子が殺未遂
- かかりつけの精神科を受診
- 入院を勧められ、入院先の病院と調整
- 入院の手続きの補助
- 入院後、ほぼ毎週、様子を見に通訳
- 退院後の生活の場所（アパート）の契約補助
- 生活保護の手続き補助
- 障害者年金の手続き補助
- 日中一次支援などの事業所の見学補助
- 退院後、家族のものを破壊する行為があり、緊急再入院
- 次の退院後の受け入れ先を探し中

学び

- 英語などの外国語に通じる病院が不足している
- 障害者の認定がそもそも難しい
- 障害者に対する福祉制度が複雑で分かりにくい
- 障害者相談窓口との連携により、福祉制度にアクセスできた
- 外国語で対応してくれるシェアハウスや日中一次支援などが少ない
- 生活保護に関する制度説明・フォームも全て日本語で書かれており分かりにくい

外国人相談窓口WELCOMEへの相談 事例 3 一出産・新生児ケアー

- ・ フィリピン人妻とギリシャ人夫の間に子供ができた。
- ・ コロナでフィリピンから家族を呼び寄せることができず、夫婦のみで暮らす。
- ・ 普段から何かあった時に頼れる同僚・知人・友人がいない。
- ・ 夫は、日中英語学校で働いていて、車の運転もできる。
- ・ 妻も夫も日本語がほとんどできない。
- ・ 妊娠後期に逆子で高血圧となり、帝王切開を余儀なくされた。本人は嫌がっていたが、WELCOMEメンバーが病院に付き添って説明し、無事帝王切開で出産
- ・ 産後、保健師さんの新生児訪問の通訳に入り、毎週、翻訳ツールを持って訪問に来てもらえることに。
- ・ WELCOMEが、赤ちゃんのかかりつけ医を見つけるお手伝いも。（近隣の小児科を3件電話したが、英語で対応が難しいと断られ、付き添う）

学び

- ・ 英語で対応してくれる産科・小児科が不足している
- ・ 津市には、こんなに多くの外国人が住んでいるにも関わらず、外国人同士のつながりがなく、孤立している家庭がまだまだある。
- ・ 出産・育児に関しては、誰でも一生にそう何回もあることではないので、不安である。そのタイミングで、社会とつながることは重要ではないか？
- ・ 職場の同僚がもう少し気を配ってくると良いのにと感じた。（外国人を雇用している会社に対する教育の必要性）

フィリピン人コミュニティーリーダーに 聞く、在日フィリピン人の課題

1.地域のルールが分からない

Ex. ゴミの分別の仕方、騒音を出してはいけないということ（フィリピン人は、普段から叫んだり、カラオケをしたりすることがある）、自由にバーベキューができないということ（フィリピンでは道端などでバーベキューをしている）

2.税金や国民健康保険の払い込みを行うのが難しい

葉書が来ても読めないで、そのまま放置することが多く、滞納になってしまって、最終的に払うのが難しくなる。一度間違っ、2回払ってしまったこともあるが、日本語が話せないで返金の申請ができなかった。

三重県の外国人に今、必要な支援

- 病院の付き添い
- 外国人の障害者・生活困窮者・妊産婦に対する総合的な支援
- 外国人同士、外国人と地域の外国文化に関心のある日本人の交流の場の創出
- 外国人が多く通う高校や専門学校において、卒業後の社会人教育（年金・国民健康保険・税金）が望まれる。

尾張地域懇談会

第18回東海交流フォーラム報告

“新型コロナ”をへて

地域と人のつながりに何が求められるか
ー尾張地域懇談会・会員アンケートの中間報告ー

報告 近藤充代・藤井恵里

報告の内容

I、アンケート実施に至る議論について

II、アンケートの集計結果について

集計結果の分析と

尾張懇談会の今後の活動の方向性について

III、会員（市民）主体の地域活動をすすめるために

I、アンケート実施に至る議論

大きな視点として・・・

- つながりや協同は社会のありようとともに変化して、新たに発生、成長・発展、消滅を繰り返す
- 今は歴史の転換点であり、時間的なスパンとグローバルな変化をつかまえる視点の両方が必要
- 尾張懇談会の地域における従来の多彩な協同や現在の取組みの中に学ぶべき事例、共通の方向性がありそう
- 尾張懇談会ではこれまで「小さな協同」にこだわって、フィールドワーク等を実施 → 「小さな協同」「身近な協同」にもっと注目すべき

さらに、

- 不寛容な社会＋コロナ禍の中で、今こそつながりが必要
→ 協同組合（そして研究センター）は新しいつながり・協同の作り方、あり方を提案していくことが求められている
- 地域でのつながりが薄れている中で、新しいつながりをどうやって作っていくのか？ これまでのつながりをどう生かせるのか？
↓
- 研究センターが交流の場を作り、そこが学びの場、学び合いの場となり、そこから相互の連携が生まれていくというイメージ
→ そのためにはすでにあるつながりの可視化が重要
↓



アンケートにより、人がつながる地域を探り、その結果から、新しいつながり、新しい活動のヒントをつかむ



アンケート結果をもとにフィールドワークを行い（現地訪問、オンラインを活用したフィールドワーク、交流・話し合い）、実践の中から活動に生かせるものは何かを議論

Ⅱ、アンケートの集計結果について

尾張地域に居住・勤務する会員アンケート

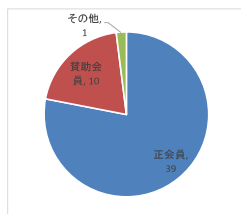
- I. 「地域でどのような団体や組織に関わっているか」
（設問①・②）
- II. 「新型コロナの生活や仕事への影響」「インターネット普及による人のつながり方の変化」の実感（設問③・④）
- III. 「尾張地域の様々な活動への各会員の関わり」や「尾張地域懇談会としてどのような活動であれば参加しやすいか」
（設問⑤・⑥・⑦・⑧・⑨）

2021年12月～2022年2月

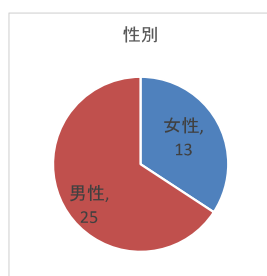
配布170名

回答54名（回収率32％） Web・文書

回答者の属性



名古屋市	12	一宮市	2
名古屋市千種区	4	津島市	1
名古屋市名東区	3	大山市	2
名古屋市天白区	4	小牧市	2
名古屋市守山区	3	春日井市	3
名古屋市東区	1	瀬戸市	2
名古屋市瑞穂区	1	尾張旭市	1
名古屋市昭和区	1	長久手市	2
合計	29	日進市	1
		豊明市	1
岐阜県	2	豊田市	1
		岡崎市	2
		東海市	1
		常滑市	1
		西尾市	1
			23

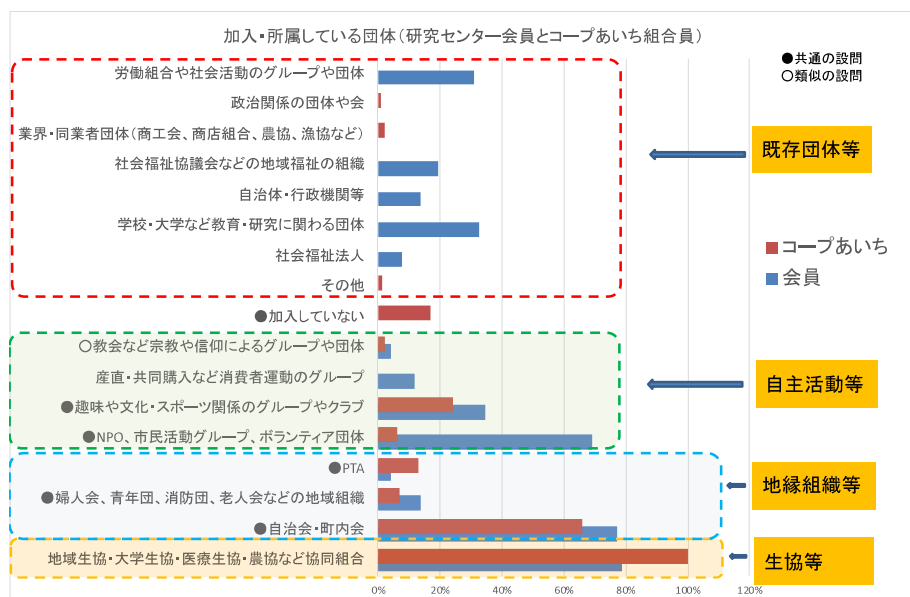


回答数 54名
アンケート集計は、内52名分

年齢



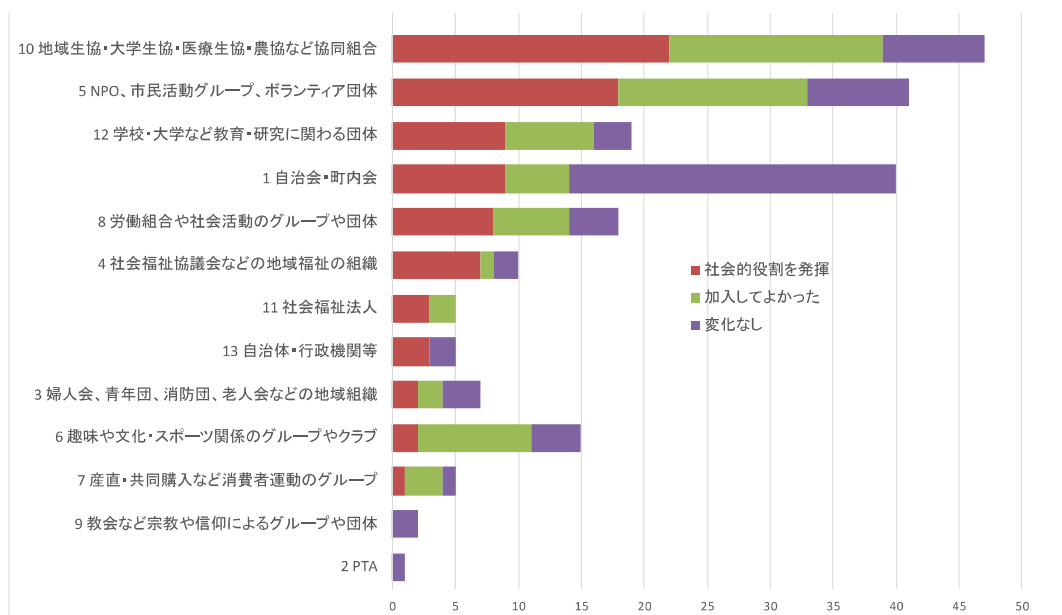
設問1現在加入している団体や組織（勤務先含む）



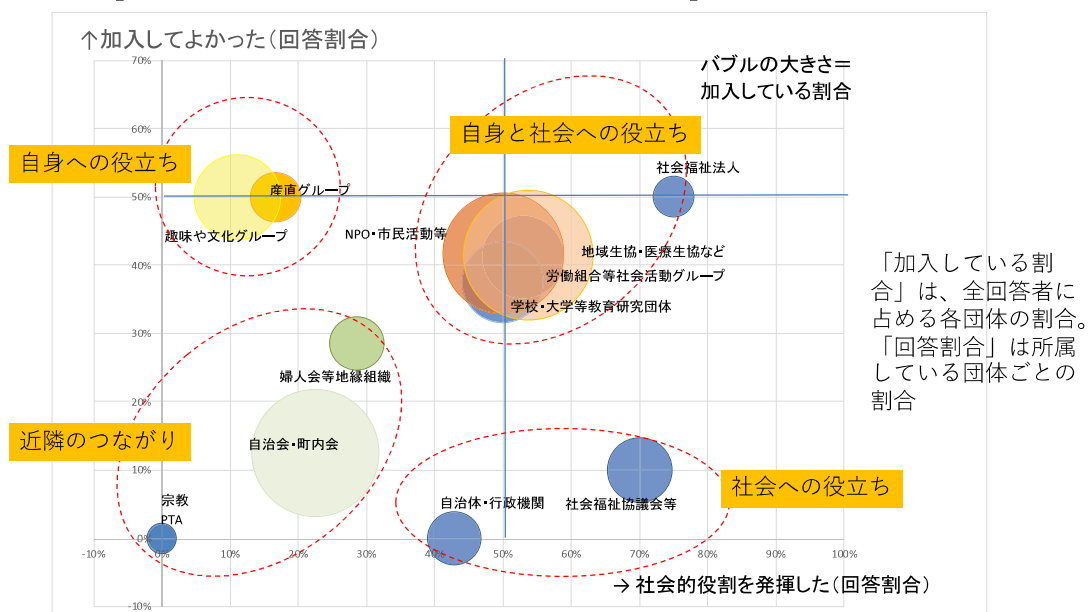
一人平均4つの団体・組織に加入

・ コープあいちは、2021年全国組合員意識調査（独自調査）結果より

設問②加入している団体や組織で、新型コロナ下での実感



同：新型コロナ下で「社会で役割を發揮したと思われるもの」「あなた自身にとって、加入していてよかったと思ったもの」「加入している実感やつながりに変化がなかったもの」の関連

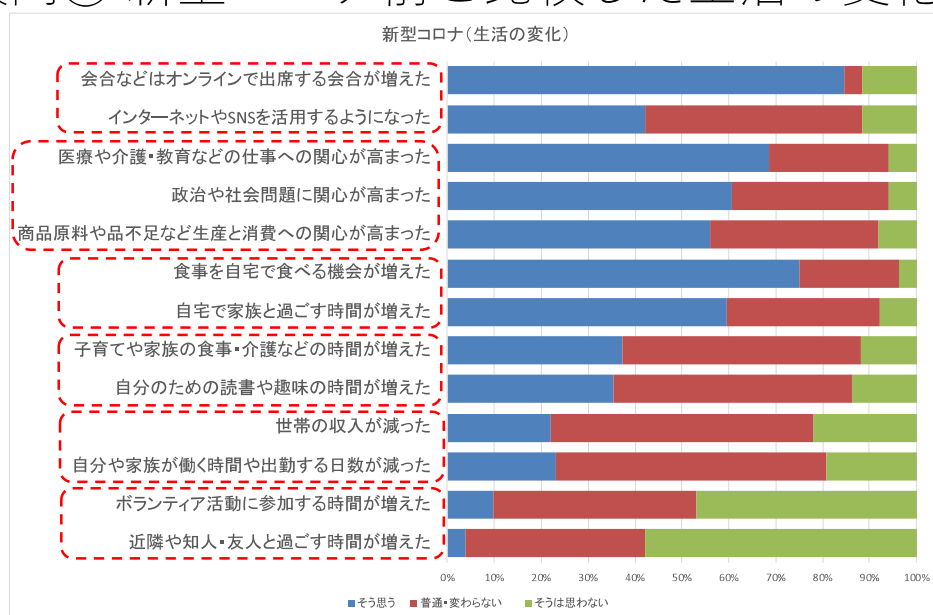


設問①、②に関連して

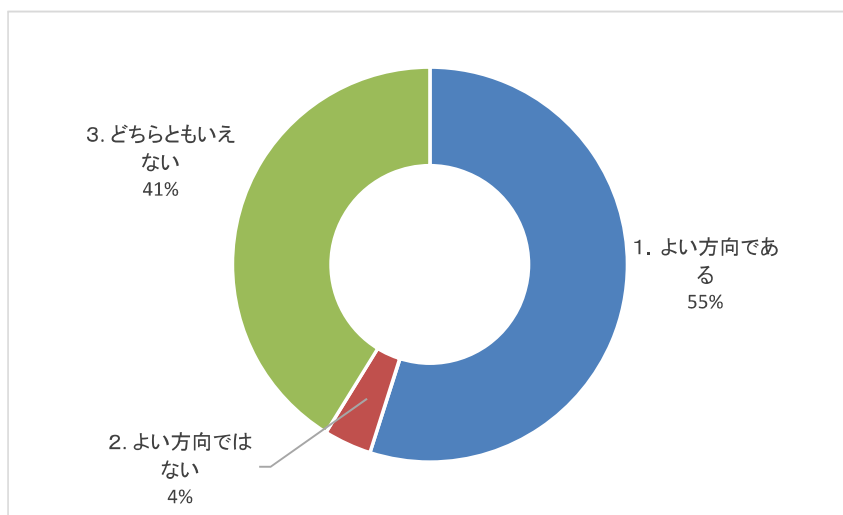
研究センターの意義について

- ・つながりが弱く、希薄になっている現代。他人を信用しない(できない)、社会参加ができない人々が増えている状況の中で、研究センターは一定の役割を担っている人が多数参加している組織
- ・加入動機(例えば、「協同、地域でのつながりを大切にしたい」、「地域で何かの役割を果たす、世直しに貢献する」、「社会を良い方向に変える」等々)からも、研究センターは新たな地縁をつくる媒体となりうると考えられる。

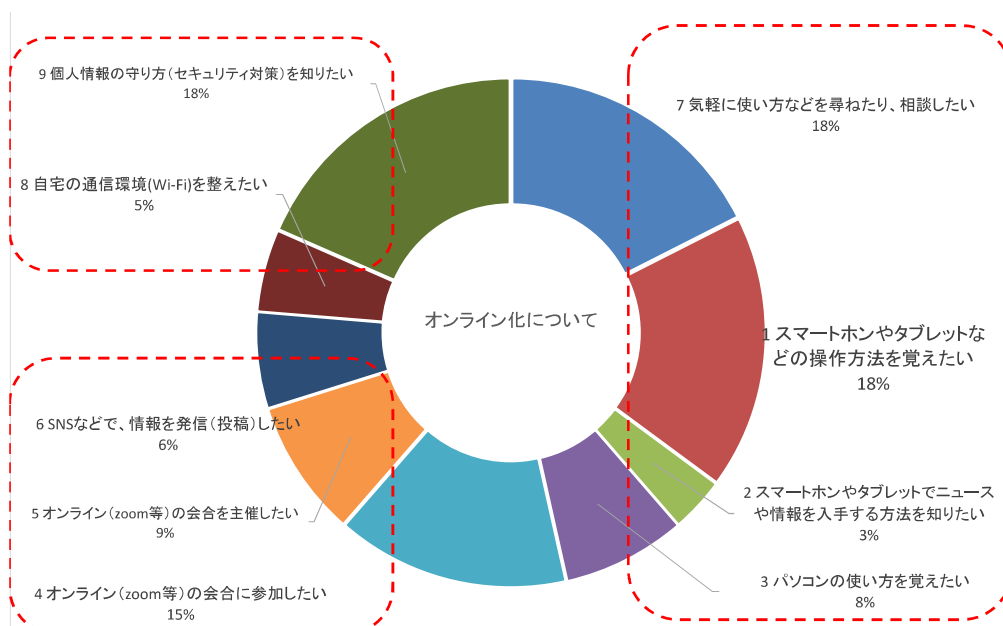
設問③ 新型コロナ前と比較した生活の変化



設問④ 会合やコミュニケーション手段のオンライン化についての実感



同：オンライン化について 一致する考え（複数選択）



設問③、④に関連して
今後の尾張懇談会の持ち方について

オンライン化のメリット

- ・参加しやすい(移動時間や費用がかからない、遠方でも参加可能)
→参加できる研究会・イベントが増加、会議の頻度が大幅増
- ・リアルでは出会えない人と出会える
- ・物事の決定・実施に要する時間が短くてすむ (⇔「ついていけない」)

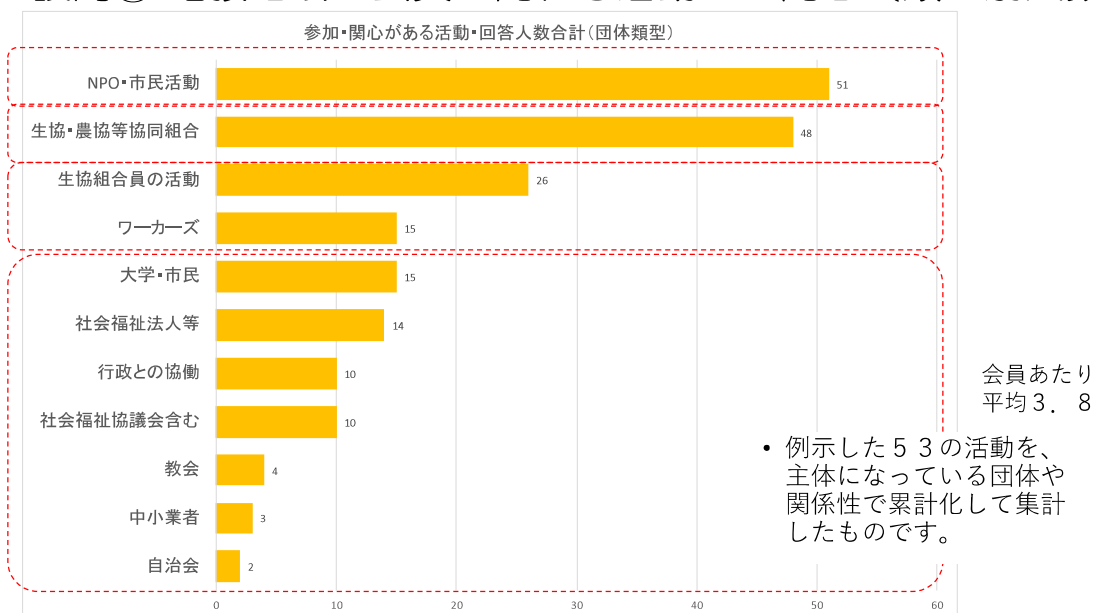
オンライン化のデメリット

- ・参加者の(場の)雰囲気が分かりづらい、発言しにくい
- ・議論が深まりにくい
- ・目が疲れ長時間はむずかしい

↓

- ・オンライン化については、全体としてはプラス方向
- ・ただし、「よい方向ではない」(6%)も少数派であるが重要
「オンライン難民層の救済」が必要との指摘も
個人情報の保護も重要(「セキュリティ対策を知りたい」との回答も多数)
- ・「オンラインとオフラインの上手な使い分け」、
「オンラインでのコミュニケーションの方法についての工夫」が必要

設問⑤ 尾張地域の会員が関わる活動への関心（類型別人数）



設問⑤ 尾張地域の会員が関わる活動への関心（類型別）

NPO・市民活動等

熱田区・港区・中川区、学習支援NPOボトスの部屋
 北区、はじめの一步（自主夜間中学）
 瀬戸市、NPOエム・トゥ・エム（菱野団地：さるなかとな）
 瀬戸市、NPO窯の広場（銀座通り商店街）
 NPO消費者被害防止ネットワーク東海（適格消費者団体）
 昭和区、Caféわたぼうし
 新型コロナ下・難民食料支援（NPOなごや難民支援室など）
 北区、わいわい子ども食堂プロジェクト（北医療生協、名北福祉会、ホウネット）
 東区、オーガニックファーマーズ朝市村（オアシス21）
 豊田市など、マルベリークラブ（桑栽培と地域循環）
 NPOあいちゃんきネット（任意後見・財産管理と生活支援）
 外国人高齢者と介護の橋渡しプロジェクト（介護通訳など）
 豊田市、稲武「いなぶ健康アカデミー」（足助病院の専門職によるボランティア組織）

生協・農協等協同組合

豊田市、保見団地「ケアセンターほみ」（愛知高齢者生協）
 新型コロナ下・大学生への食料支援（愛知公立大学生協とコープあいち、長久手市）
 コープあいち・生活支援センターなごや（名古屋市の総合事業）
 緑区、南生協病院・よってって横丁
 新型コロナ下・酪農生産者・学校給食用牛乳の支援（コープあいち・中央製乳など）
 豊田市、足助「厚生連足助病院」の地域医療
 南区、南医療生協・おたがいさまの家（星崎ブロック）
 みなと医療生協・サービス付き高齢者向け住宅はなみずき
 新型コロナ下・花生産者の支援（JA愛知中央会とコープあいち）
 東海市、南医療生協・のんびり村
 名東区、コープあいち福祉サービス名東と北医療生協訪問看護ステーション
 北区、寺子屋学習塾（北医療生協）
 小牧市、コープあいち・子育てマルシェや子育て支援協定

生協組合員の活動

コープあいち・組合員の平和への取り組み（あいち平和行進の歴史など）
 コープあいち・組合員による、東日本大震災支援・ボランティア活動グループ
 西区、くろかわこども食堂（コープ黒川店）
 春日井市、コープあいち・春日井くらしのすけあいの会
 名東区、こども食堂（コープ上社店）
 守山区、いっぶく茶屋（コープ小幡店）

ワーカーズ

ワーカーズコレクティブあいち（労働者協同組合法・生活クラブ生協）
 ワーカーズコープ東海事業本部（労働者協同組合法・協同集会実行委員会）
 瀬戸市、いきいきワーカーズ瀬戸
 ワーカーズコープ企業組合（モーニングコープ・豊明市での生活支援など）
 名東区、ワーカーズ・コレクティブによる認知症デイ（生活クラブ生協）

大学・市民

ゲスト講師参加、金城学院大学・コミュニティ福祉学科「協同組合論」
 ゲスト講師参加、名古屋市立大学・寄付講義「現代社会と人と地域のつながり」
 ゲスト講師参加、名城大学・人間学部・法学部「ボランティア入門」

社会福祉法人等

名東区、社会福祉法人TUTTI（名東区・農民連と協力した産直市を開催）
 北区、名北福祉会（保育・障がい・高齢）
 天白区、社会福祉法人はっとはむ
 南区、社会福祉法人ゆたか福祉会（福祉人材確保（ベトナム・フエ科学大学と3法人の連携）
 南区、名古屋キリスト教社会館（高齢・障害・保育）
 新型コロナ下・感染防止対策の学習会（あいち在宅福祉サービス事業者懇談会）

社会福祉協議会含む

豊明市、生活困窮者支援（コープあいち・豊明市社協・豊明市の三者協定）
 コープあいち・移動店舗と自治会・社協による買い物支援（名東区引山荘など）

行政との協働

愛知県被災者支援センター（広域避難者支援：県・NPO・社協・コープあいちの協働）
 豊明市、住民主体型生活支援「ちやっと」（南医療生協・コープあいち・JAあいち尾東）

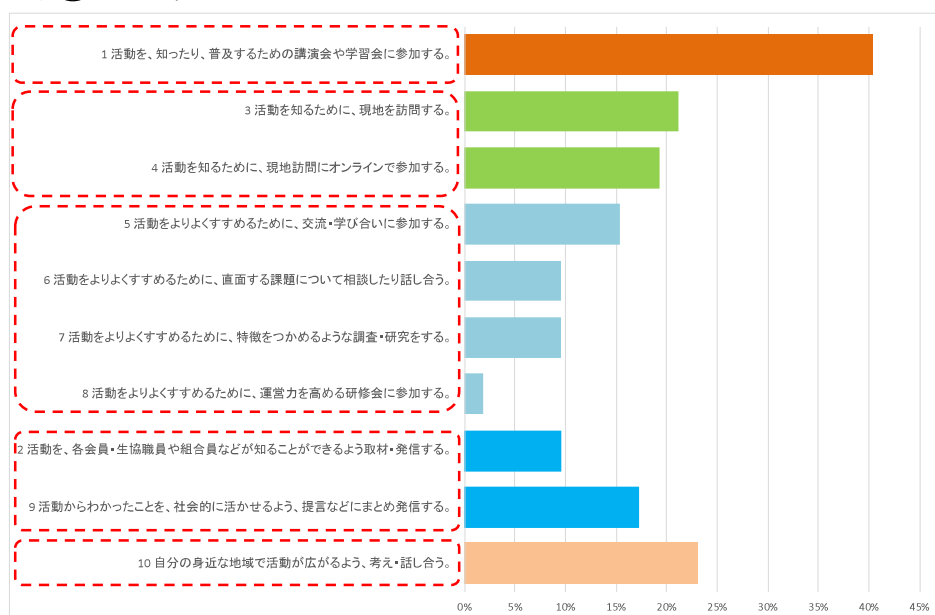
教会・中小業者・自治会

昭和区、外国人留学生・日本語学校生徒の支援（南山教会）

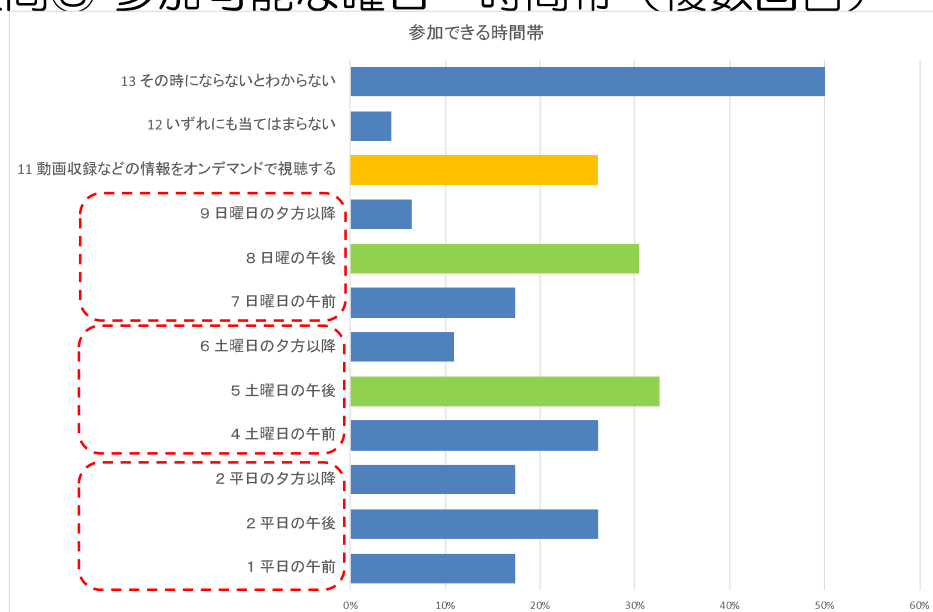
愛知県商工団体連合会（消費税やまちづくりの学習会）

緑区、森の里団地自治会（住民の支え合い）

設問⑦ 尾張地域懇談会として、参加したい活動



設問⑧ 参加可能な曜日・時間帯（複数回答）



設問⑤、⑥、⑦、⑨に関連して
今後の活動の方向性について

- ・研究センターは会員の活動全体をつなぐ“要” → 設問⑦の1～10
（講演会・学習会、取材・発信、現地訪問、交流・学び合い、調査研究・・・）
全てが研究センターのミッション
- ・研究センターの会員活動についての意見・提案（設問⑨）
「各団体の活動が地域住民の自治に対してどうかかわっているのか」
「尾張地域（都市部）でのつながりに、光を当てたい（掘り下げたい）」
「誰でも参加できる、単発でも参加できる場」
「より多くの方々も参加できるような活動」
「会員外への発信力を強化したい」 など



- 設問⑤の1～53の会員の活動事例＋⑥の紹介可能な活動について、活動内容ごとに集まり交流する、あるいは地域ごとに集まり交流するなど、様々な形で交流・情報交換・連携が可能。
- 「研究センターは実践を広げるためのプラットフォーム、…身近なところで、会員自らが地域を創っていくことを支援することが求められている」



- 地域ごとの交流・連携
地域でつながりをどう強めていくか、地域をどう変えていくかを考え合う方向で、情報を共有し、学び合い、成功事例について、それが可能となった理由を分析し、実践に生かす方法論を見つけていく
ノウハウ、方法論を共有・蓄積してコミュニティリーダーを育てていく
- 活動内容ごとの交流・連携も重要
ただし、すでに様々なネットワーク組織がある中で、研究センターはどのような役割を持つのか、独自のミッションを明確にしてネットワーク組織を作ることが重要